トピック

日本・アフリカビジネスフォーラム 2014

堀内伸介
（一般社団法人）アフリカ協会理事長

6 月 10 日、11 日に、「日本・アフリカビジネスフォーラム 2014」がアフリカ開発銀行と在京アフリカ外交団の主催、JICA、ジェトロの共催、主要省庁、国際機関、経団連、アフリカ協会等々の後援で開催されました。このフォーラムは、昨年 6 月に開催された TICAD V、今年の安倍首相のアフリカ訪問のフォローアップとして、日本とアフリカのビジネス・パートナシップの一層の強化を推進するため、在日アフリカ外交団の呼びかけにより開催されることになった官民連携によるフォーラムです。

さらに 9 日から 13 日の間に、関連行事として以下のイベントが開催されました。

「ケニア・エネルギー・セミナー」（9 日、於　日本貿易振興機構本部）
「東アフリカ共同体ビジネスセミナー」（12 日、於　航空会館）
「特別セミナー　BOP・インクルーシブ・ビジネスの最前線」（12 日、於　国連大学）
「ルワンダ共和国ビジネス・投資セミナー」（12 日、於　日本貿易振興機構本部）
「ルワンダ共和国ビジネス・投資セミナー」（13 日、於　TKP 三宮会議室）
「EPSA に関するセミナー」（13 日、於　JICA 研究所）

日本側の参加者は、日本政府と関係公的機関は勿論のこと、多くの企業と企業団体の代表者でした。イイノホールの 400 席は早々に埋め尽くされ、別室で大型スクリーンによる参加者も出たほどでした。アフリカ側の参加者は当初アフリカを代表するビジネス・リーダーや公的部門の要人 33 名を予定しておりましたが、前日までに 100 名を超す参加者が来日し、参加者名簿が用意できないという盛況ぶりでした。

11 日夜には、参加者全員を招いて、外務省、アフリカ協会、アフリカ開発協会主催のレセプションを外務省で開催いたしました。丁度 6 月 11 日から 4 日間、外務省の在アフリカ駐在日本大使会議が開催されており、日本大使の皆さんにも出席いただき、アフリカ協会としては最大のレセプションとなり、多数の新たな人脈の開拓やアフリカの友人たちとの旧交を温める機会になりました。

フォーラムの詳細については、日経ビジネスが 7 月号で報告すると思いますし、各参加機関も個別に関連事項について報告がされると思います。会議のスコープをご理解いただくために全体会議、分科会の議題を紹介いたします。10 日午前、午後と 11 日の午前中は全体会議、午後に分科会が開かれました。

基調パネル: 「アフリカで成功する：拡大し続ける成長と機会」
フォーラム議長；モハウ・ペコ南アフリカ共和国特命全権大使
パネリスト；
　アダム・ケンドール（マッキンゼー・サブサハラオフィス パートナー（南アフリカ）、
　ダフネ・マシレ・ンコシ（カラガディ・マンガニーズ CEO 会長（南アフリカ）、
　ザテ・ズクポ　（アフリカ開発銀行総合調整局長）
　岡村 善文（外務省アフリカ部長）、
　関山 護　（経済同友会アフリカ委員会委員長 丸紅副会長）、

アフリカ側の参加者は、2000 年以降のアフリカの急成長を引用し、アフリカの大きな可能性を強調しました。ハイリスクー・ハイリターン、輸出の急速な増加、起業家の必要性、インフラ投資、社会的投資などが説明され、農業、食糧の安全保障、サービス業、経済構造改革の進展が貧困層の減少に寄与していることも強調されていました。基調講演であるので、当然かもしれませんが、アフリカ讃歌が繰り返されました。日本側からは、TICAD V のコミットメントの忠実な実施、特に地域別のマスタープランの作成、人材育成プログラム、大学院への留学生受け入れ、日本企業の投資の増加などが強調され、日本側のアフリカへの強い思い入れが反映されたと思います。しかし、民間企業の中にはアフリカへの投資に対して、未だ懐疑的な面もあることも指摘されました。

全体会議の議題
　「エネルギー、電力及び天然資源分野のビジネス」、
　「道路・交通、都市・社会インフラ等」、
　「農業関連ビジネス」、
　「アフリカの経済・産業高度化に向けた日本企業の貢献（１）と（２）」、
　「健康なアフリカ」、「リスクへの対応と管理」、
　「ファイナンス：投資価値と資金調達」

分科会：
3 会場
　アフリカ企業による自社のプレゼンテーション、
　アフリカ政府関係者による自国の投資機会等についてのプレゼンテーション、
　日本企業のアフリカビジネス、プロジェクトに関するプレゼンテーション、
　アフリカビジネス振興に関連するテーマ、
　トピックに則したプレゼンテーション、

メイン会場
　アフリカ５地域別のビジネス・投資機会-各地域一時間、

更に、ビジネスマッチング会場も用意されました。

全体会議にはすべて出席し、多数のスピーチを聴いた感想を簡単に記してみます。

① アフリカ側のプレゼンテーションは、多様であり、誰かがすべての調整をしたとは思われませんでしたが、21 世紀に入ってからのアフリカ諸国の変化と可能性を強調する一枚岩でした。80 年代、90 年代のアフリカとは隔世の感のあるアフリカが描かれました。広範な中国企業の進出と同様な日本の進出を期待せず、日本の得意の分野での進出を強く期待していることも明瞭でした。アフリカに進出している日本企業は約 500 社であり、中国企業は約 3 万社との報告もありました。

② 日本側の反応は、すでにアフリカに出ているトヨタなど大企業は将来の拡大計画を述べておりました。アフリカ進出を計画している独自の技術をもっている中小企業が非常に熱心にアフリカを学ぶ態度には感心しました。アフリカのリスクを学び、アフリカの企業にパートナーを求めるこれらの企業から成功例が見られるでしょう。問題はアフリカを未だ大きな可能性と認識していない大企業です。現在の安全な殻の中から少々頭を出して眺めている様子は明らかでした。全体会議の最終で議長の南ア大使の言葉がすべてを要約しています。『日本は既に出遅れている。 しかし、機会は開かれている。人類はすべてアフリカから出たのだから、日本人もアフリカに帰ってきてください。』